

「インサルト」の目

観光資源として稼ぐ産業遺跡化したNASAジョンソン宇宙センター

注目されだした産業遺跡の観光資源としての活用策

近年、産業遺跡が観光資源として注目を浴びている。学会もでき、新たな活用方法など、いろいろな角度から研究が盛んとなっている。

大佐渡スカイライン沿いの佐渡金山では史跡宗太夫坑が公開されている。宗太夫坑は佐渡金山中、最も良質の鉱脈であったもので、内部では電気仕掛けの人形を使って鉱石採掘の様子を再現している。関連施設として金山展示場とか相川郷土博物館をつくり観光資源として活用されている。

足尾鉱山や石炭の夕張坑もほぼ同じような観光資源化の道をすすんでいるが、いずれもピーター客の確保には苦戦を強いられていくようである。

千葉県野田市を分断する運河は、かつて利根川沿いの物産を陸路で運んでいたのであるが、江戸川を通り直接東京へ物資を運搬するために外国人の設計で開削され

たショートカットルートである。現在でも原型を留めているが、親水公園として近隣市民の憩いの場いわば都市公園になっている例もある。



NASAジョンソン宇宙センターの見事な変身

①テーマパークの併設とツアー（見学コース）の設定

アメリカ南部に位置するテキサス州ヒューストンの宇宙センターの隣接地にフリーウェイを挟んでスペースセンター・ヒューストンがある。スペースセンター・ヒューストンはミュージアムショップや宇宙センター関連の各種アトラクションや体験コーナーがあり、一種のテーマパークと呼べるものである。

スペースセンター・ヒューストンからNASAの研究所やロケットが展示されている宇宙センター

へは、トラムのツアーが用意されている。トラムに乗り込むとフリーウェイを潜り抜けてNASAの敷地に入り、模型と思われるシャトルの周囲で作業している場所を見ることが出来る。

大変な混みようで、大人が数人の子供を引率していると思われるグループや、一家三代で来た家族連れなど、ミュージアムショップやアトラクションコーナーで賑やかであった。ツアーの待ち時間も平均2時間位だという。

夏休みのシーズンには1万人もの来場者があり、入場料はツアーも入ると50ドルなので大きな収入源となっているし、ミュージアムショップでのお土産品売場では東京デイズニールランドの売店で見られるようなお土産品をかかえた子供達で溢れている。

数年前に宇宙センターを訪れた時には、バスがゲート前に着くと徒歩で構内に入り、野原のようなところを突き進むと突如ロケットが現れ、観光客は数グループしか

いなかったものである。この変わりようはどこに要因があるのかと感心させられるばかりであった。

②いつどのような仕掛けがあったか

一般に、産業が興ると産業施設が建設される。次いでその産業の衰退がすすんだり、産業の機能が縮小すると産業遺跡がすすむ。更に、その産業が消滅するとかつての産業施設は産業遺跡として残る。

数年前の宇宙センターは、ロケット発射基地はすでにフロリダに移され産業遺跡化がすすんでいた。今回の宇宙センターでは、産業遺産とならず観光施設へと生まれかわっている要因をみつけることができた。

それは次のようなものと思われる。

- a. ミュージアムショップのあるスペースセンター・

ヒューストンに入場するのに持ち物検査があり、ちよつと緊張させられた。

b. NASAの敷地へ入るツアーのトラム乗場には、ピストルを携行した係官立合いの金属検査があり、改めてツアーパスポートが手渡された。

c. ロケット周辺はフェンスがめぐらされ、展示場へはパスポートを提示してガードマンの前を通って入場する仕組みとなっていた。

等々、かなり物々しさを感ぜずにいられない。つまり、現役の機密施設に近づくのだと思わせる仕掛けを感じることができた。これによりNASAの産業遺跡化の進行をストップさせることが実現できたように思われる。更に、観光施設に生まれ変わり、全米からの観光客を集めることが可能となったのであろう。

更に、将来には隣接地域にテーマパーク型のSCや観光客向けのアウトレットセンターが進出することも予想されるし、フロリダのデイズニールランドに対抗して日本で成功を収めているデイズニー

シーの導入もあり得ると思われる。もう一つ注目すべきことはターゲットをきちんと決めていることだ。これはマーケティングの基本でもある。

NASAの宇宙センターのターゲットは退役軍人とそのお孫さん達で5〜6人のグループとなる。しかも、お孫さん達の年齢幅を考えると数回は宇宙センターを訪れるに違いない。将来、隣接地に門前町ができてでも不思議はないと思われるのである。



産業遺跡化をどう止めるかが課題

国内でも産業遺跡化の問題は数多くあると思われる。アメリカの手法から学べることは産業遺跡となってしまうのは手遅れで、産業遺跡化の段階で手を打つことであろう。

産業遺跡となってしまうと多くの場合、遺跡として保存しようとする動きが多くなってくる。つまり、産業施設として再生するのは難しくなるであろう。すでに産業遺跡となってしまう場合には、時計の針を逆進させ、まだ産

業遺跡化の状態にあるかのごとく演出する方法を探し出すことである。NASAセンターでは数年前の訪問からは想像もつかなかった、入場時の持ち物検査、NASA敷地に入るにはピストル携行の係官立合いの金属検査、パスポートの携帯、ロケット展示場へはパスポートの提示を求められる。あたかも、軍事機密施設へ入場するかのごとく、緊張感を覚えさせられる演出をしている。

NASAの場合は軍事施設であるが、産業遺跡化はかなり進んでおり、しかし産業遺跡となってしまう前に初期の産業遺跡化の始まりの状況を演出しているのは見事である。

埼玉県深谷市に、かつて隆盛を誇ったレンガ工場がある。迎賓館の建物もここから生まれたレンガが使われているそうで、多分、東京駅や新橋あたりの高架橋にもここから積み出されたレンガが多いはずだ。

現在ではレンガの建材としての用途が少なくなつたことと、マレーシアなど海外から輸入される量が増え、実際に製造される量はごく少量となつてしまったようである。生産は続いているのでまさ

に産業遺跡化へとすすんでいるとみられる。

一方で、観光資源化の努力もみられ、JR深谷駅舎をミニ東京駅風に改装、日本燥互資料館、レンガ積み出しのために敷設された軌道跡を緑の遊歩道として、また、レンガ積みの橋脚をもつ鉄橋も保存されている。敢えて付け加えると観光資源として利用してもらおう。例えば、ガーデニングに興味をもつ人に、自分のイニシャル入りのレンガをつくってあげれば、ターゲットの一員となるだろう。

産業遺跡となつている石見銀山跡が世界文化遺産指定を目指していることも注目される。江戸時代には世界一の銀の採掘量を誇つたといえ、産業遺跡を遺跡化まで時を戻す工夫はかなり難しそうだけれど、興味のわくところである。

日本では、今後、工場や倉庫のほかにテーマパークや競馬場などの遊技施設、商業施設や学校などの遺跡化の始まる分野は多くある。これの再生手法の確立、産業資源化の手法をどう検討していくかが課題の一つとなるであろう。

(中小企業診断士 大橋唯男)